

2022 年 第3回専門医制度委員会議事録

日時:2022 年 7 月 4 日(月) 19:00~19:30

場所:web 会議

出席者:中村雅也(担当理事)、藤田順之(委員長) 明田浩司 海渡貴司 高橋真治
竹下克志 名越慈人 渡辺雅彦 波呂浩孝(アドバイザー) (順不同、敬称略)

欠席者:なし

① サブスペシャルティ領域専門研修制度の進捗および今後の流れ

すでに脊椎脊髄外科専門医検討委員会の組織構成・名簿と規約が日本専門医機構へ提出されている。現在 NSJ 側と、脊椎脊髄外科専門研修制度整備基準案を作成しているが、フォーマットの一部でプログラム制とカリキュラム制の文言が混合しているところもあり、現在専門医機構へ問い合わせをしている。8 月上旬に作業部会が開かれる予定で、そのあたりで整備基準案も完成する予定である。

専門医の更新について会員からの問い合わせが JSSR 事務局にもあり、今後専門医更新システムについても検討する必要がある。E-learning の受講を必須条件にすることも考えられるが、脊椎脊髄外科専門医試験問題集から選んだ問題を何問か解答してもらい、正答であることを条件としてもよいかもしれない。日本専門医機構に相談する案件でもあり、専門医機構の組閣が決まれば本件を進めることとする。

今後学会 HP 上のマイページは大きくシステムを変更する必要はないとは思われるが、各自のカリキュラムの進捗などが分かるように内容を更に充実させる必要がある。

② 専門研修制度カリキュラム改正について

JSSR 側と NSJ 側のカリキュラム改正案がそれぞれ出されているが、今後 JSSR 側でそれぞれの草案を組み合わせ、その後 NSJ 側が確認する流れとなっている。

カリキュラムの中で、「脊髄内非腫瘍性病変」を知識習得の到達目標の一つにするかどうか議論されたが、以前 NSJ 側から本項目を到達目標に組み込む要

望があったことを考えると、今回の改正においても留める方向で進めることとなった。

手術の到達目標の中で、腰椎後方固定術を「少なくとも第一助手として経験することが望ましい手術」から「術者として経験すべき手術」に変更してもよいのではないかという意見が出たが、腰椎に対する除圧か固定の術式選択が現時点ではコンセンサスを得られていないなか、固定術を術者の必須条件とするのは時期尚早であり、このまま変更なしで進めることとなった。

「少なくとも第一助手として経験することが望ましい手術」の中に、脊髄腫瘍摘出術が含まれているが、限定的な意味合いを避けるために「馬尾腫瘍を含む」という文言を付け加えることとなった。

③ 基幹研修施設の新規申請結果について

今回は 12 の基幹研修施設の新規申請があった。11 施設は条件が満たされており承認されたが、1 施設においては学会発表がされておらず、日整会認定証も昭和 58 年のものでかなり古く、今回は見送りとなった。

④ 2022 年専門医試験監督の確認

第 57 回日本脊髄障害医学会で開催される第 16 回専門医試験監督の担当が確認された。

次回開催日について

8 月上旬の作業部会の日程が決定した後、委員の中で次回開催日を調整することとなった。Web 会議予定。

文責 藤田 順之